

新春景気アンケート調査結果

景気好転に慎重な見方

富山商工会議所／総合企画課

わが国の景気は平成14年1月を底にアメリカ、中国などの外需に先導され、設備投資や個人消費が堅調に推移する中で緩やかながら回復を続けてきた。しかし今年後半、アメリカ景気の不透明感や中国の経済引き締め策、原油価格の高騰などを背景に一服感が広がってきた。

こうした状況の中、景気は踊り場を経て新たな成長過程に向かうのか、それとも再び後退局面に陥るのか。来年の景気見通しについて当所の議員企業を対象にアンケート調査を実施した。

I. 調査実施要領

1. 調査時期 平成16年12月
2. 調査対象 富山商工会議所議員企業 130社
3. 調査方法 調査票をファックスで配付、回収した
4. 回収数 80社（回収率61.5%）

II. 調査結果の概要

来年の国内景気の見通しは「現状と変わらない横ばいが続く」が56.3%と半数以上を占めた。これを1年前の調査結果と比較すると、今回の調査では「今年より好転する」が5.0%で前年調査(26.7%)を大きく下回った点が注目される。また「既に回復過程にあり、緩やかな回復が続く」との合計(25.0%)は、前年調査比で、11.2ポイント下回った。一方、「今年より悪化する」(12.5%)は、前年を6.8ポイント上回った。これらにより、来年の国内景気の見通しに関しては、前年に比べやや慎重な見方が広まったと考えられる。

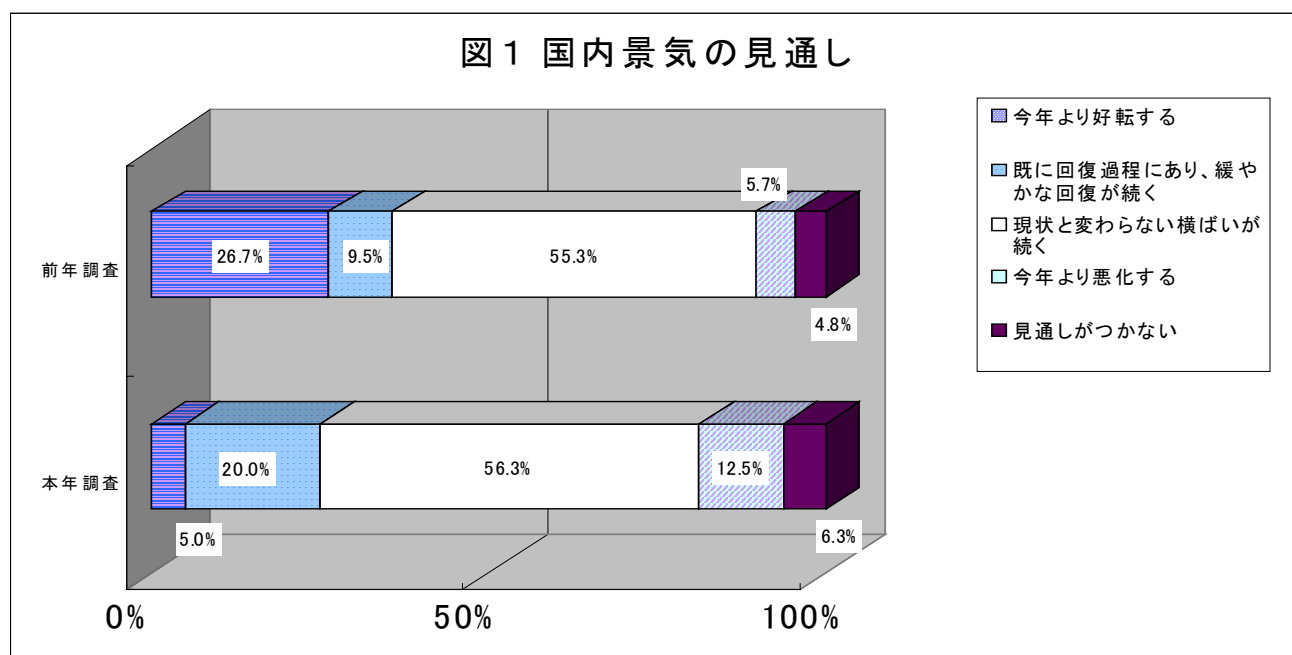
「経営上の問題点」についての上位3項目は、「販売競争の激化」(75.0%)、「収益性の悪化」(47.5%)、「売り上げ(受注)の減少」(40.0%)であり、前年の調査結果と同じであったが、「販売競争の激化」が前年(60.0%)より15.0ポイント増加した点が目立つ。

※ コメントにある昨年調査との比較では、選択肢などに一部入れ替えがあるため、厳密な意味での比較ではありません。

Ⅲ. 調査結果

1. 平成 17 年 の 国内景気 の見通 し

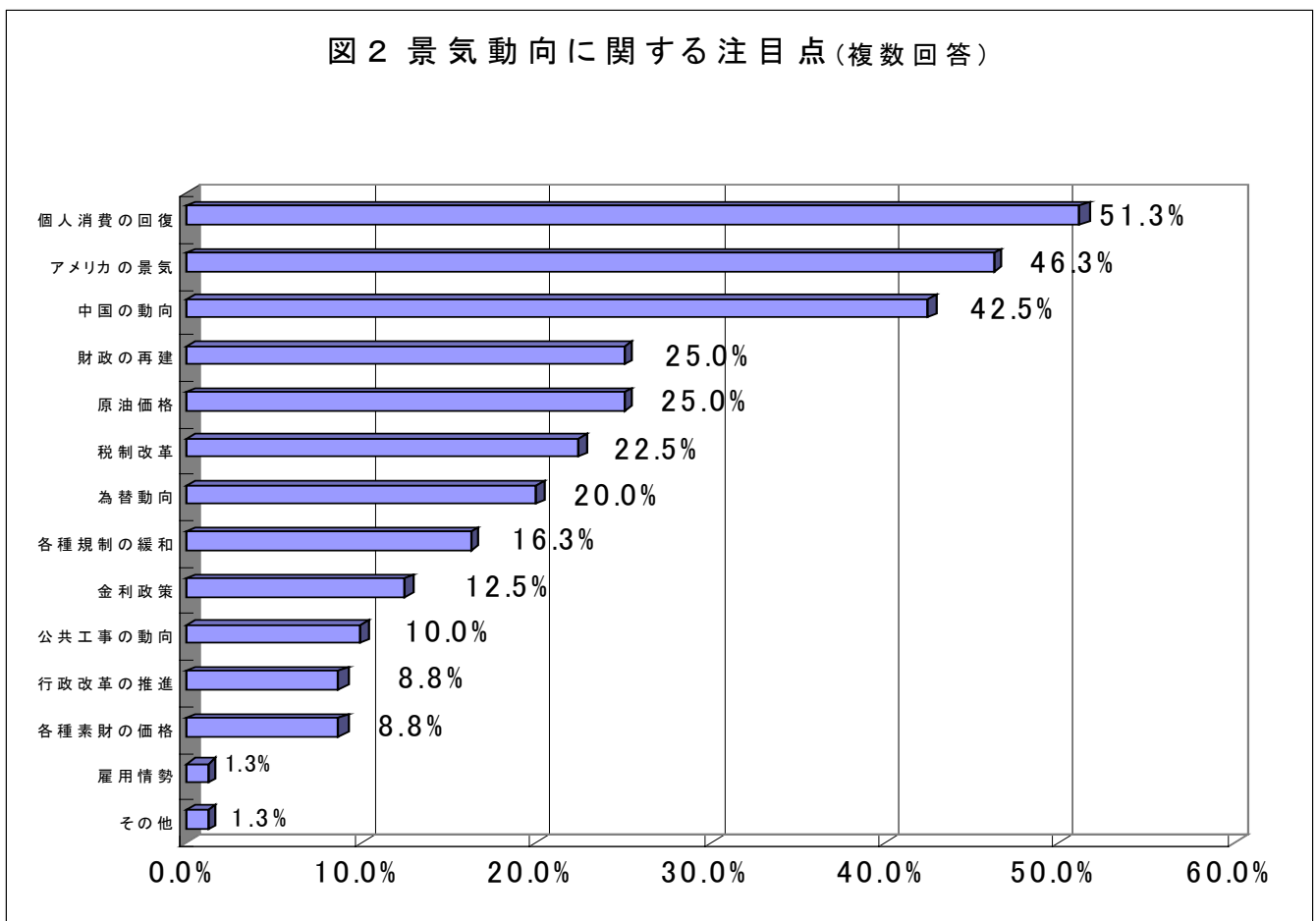
来年の国内景気の見通しを尋ねた結果が、図1である。これをみると、「現状と変わらない横ばいが続く」が56.3%と半数以上を占め、「既に回復過程にあり、緩やかな回復が続く」が20.0%で続いた。これを前年の調査結果と比較すると、今回の調査では「今年より好転する」が5.0%で前年調査(26.7%)を大きく下回った点が注目される。また「今年より好転する」と「既に回復過程にあり、緩やかな回復が続く」を合計すると25.0%であり、前年調査(36.2%)と比べると、11.2ポイント下回っている。一方、「今年より悪化する」は12.5%であり、昨年調査(5.7%)を6.8ポイント上回った。これにより、来年の国内景気の見通しに関しては、前年に比べやや慎重な見方が広まったものと考えられる。



※比率は小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

2. 景気動向の注目点

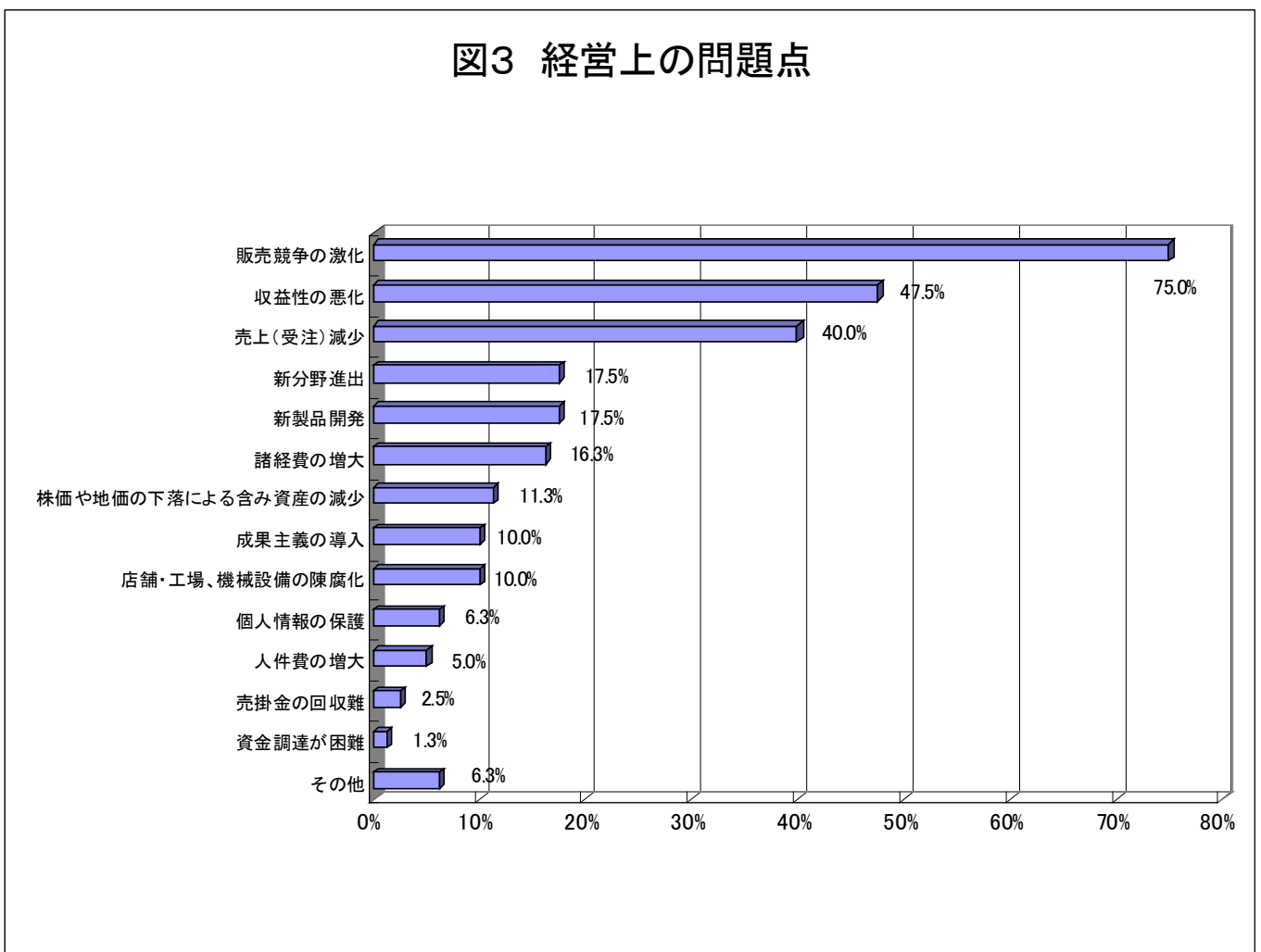
景気動向に関して注目しているポイントを複数回答でたずねたところ、図2のとおり、最も多かったのは「個人消費の回復」で51.3%、次いで「アメリカの景気」46.3%、「中国の動向」42.5%となった。雇用情勢が改善し底堅いといわれるものの、定率減税縮小など悪影響を懸念される材料などもあり、個人消費に注目している経営者が多いものと思われる。



3. 経営上の問題点

経営上の問題点についての回答（複数回答）での上位3項目は、図3のとおり、「販売競争の激化」（75.0%）、「収益性の悪化」（47.5%）、「売り上げ（受注）の減少」（40.0%）で、前年の調査結果と同じであった。「販売競争の激化」が昨年（60.0%）より15.0ポイント増加した点が目立つ。

図3 経営上の問題点



4. 当所に対して求めること

富山商工会議所に対して求めることは何かをたずねたところ、図4のとおり、最も多かったものは「とやまの街づくりへのリーダーシップと実現力」で62.5%、次いで「行政などへの政策要望実現力」(46.3%)、「会員の直接的メリットにつながる事業の充実」(26.3%)となった。この上位3項目についても前年の調査結果と同じになったが、「とやまの街づくりへのリーダーシップと実現力」は前年(46.6%)を15.9ポイント上回っている点が注目される。

図4 当所に対して求めること

